



○道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通り表彰、關係地方廳にそれぞれ傳達方を依頼した。

五月四日表彰

表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯

山形縣修路工夫 豊田 鐵之助

同 同 板坂 忠藏

同 同 石山勝太郎

表彰狀 山形縣飽海郡北平田村北平田愛道會

同 同縣東村山郡相模村相模村青年團

同 同縣北村山郡宮澤村宮澤村青年團

五月二十日表彰

表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯

高知縣修路工夫 手島 周平

同 同 東 宗次

○三重縣下矢ノ川峠開鑿記念碑の建設

三重縣下南北牟婁を縦走する府縣道津木本線中尾鷲木本間に交通上多大の障碍となつた矢ノ川峠開鑿の難工事は工費五十八萬圓を以て昭和九年九月着工幾多の苦難を克服して同十一年九月竣工したるものなるが今回其の天險克服の難工を永久に記念せんが爲めに碑を建つることとなつた、左に建碑趣意書を掲載する。

矢ノ川峠開鑿記念建碑趣意書

「伊勢大橋」と「熊野大橋」が架設されて、愛知、和歌山と提携しました三重は、更に、伊勢路と紀州路を阻むでゐました天險「矢ノ川峠」を開鑿して首尾一貫し、桑名から

新宮まで二二〇キロ、九時間のドライブを可能ならしめたのであります。

將に三重交通史の革命であります。

古今の革命は青史を血潮で彩つてゐます。工費六拾萬圓を投じました矢ノ川峠開鑿の頁にも血と汗の痕がマザ／＼と印されてゐるのであります。

矢ノ川峠は海拔實に八百米の高峯で——行人は千六百米の索道と崎嶇羊腸の小徑を辿つて峠を越してゐたのであります。——全山雜木粗糝の花崗岩の塊で、しかも斜層をなして脈が亂れてゐました。

矢ノ川峠の静寂が破れて土工バラツクの急造、索道の架設、火薬庫の建設と一切の戦闘準備が整へられたのは、昭和九年の秋でありました。爾來、二星霜、二千人に近い土工達は、米、水、野菜に乏しい山奥で、奇獸怪鳥の叫びに怯える家族を擁して、晝は一條の綱を頼りに岩角を攀ち或は谷に降りて命懸けの作業を續けました。監督員達も、毎日宿舎に引揚げてはお互の無事を慰め合ふのであります。

爆破の響、槌の音は山から山へ伝へて、矢ノ川の峽谷は阿修羅の巷と化しました。

削られた岩肌は無氣味に赭白く聳え壘々たる岩塊は豁を埋め翠を殺して、文字通りの殺風景を想はしめたのであります。

難工事は遂に傷者三百名を出し、その内、二十名は不具者となりました。隨一の難所「南谷」では息詰まる様な難工が續けられて、即死者四名を交通革命の犠牲に捧げたのであります。

斯うして工事は昭和十一年の秋竣功を告げ、尾鷲——本四十六キロのドライブ・ウエーに瀟洒たる省營バスの姿が現はれ車窓に雲煙去來の重疊々々山嶽美が展開されたのであります。

皮肉なことには、工事で苦しんだ處程景色が好くて、後世文人墨客の眼に止まり、名吟を生み名畫を貽しさうな處許りであります。かうして藝術によつて矢ノ川峠の新風景が世に出れば、其の山水を血に彩つた犠牲者の靈は慰めら

れるのでありませうか？

聽ては、建設の勞苦も、苔に掩はれて世人に忘れられて仕舞ふのでありませう。

二ヶ年もかゝつた難工事も、僅かに二時間半で新風景に陶醉しながらドライブが出来るのでありますから——

矢ノ川峠が新鑿されて、千古の史趣を包藏する熊野路へ加速度的に文化が浸潤しました。さうして、その古典的な珠玉の風景を浮世に近づけたのあります。

紀州路は、神武天皇御東征の由緒深い地方であります。

輝く皇紀二千六百年を迎へ、肇國の御覇業を偲び奉つて此地方へ杖を曳く者相踵ぎ、交通文化の新紀元を劃しました矢ノ川峠の開鑿をして、更に意義あらしめて居ります。

以上申し述べました様な譯で、此難工事を永久に記念し、尊い犠牲に殖れた人々の靈を慰める爲に、私共同志相謀り、當時の縣知事廣瀨久忠閣下御染筆の記念碑の建立と見晴臺の設立を計劃致したのであります。何卒御協賛を御願ひ致します。

昭和十五年五月

矢ノ川峠開鑿記念碑建設發起人

三重縣廳土木部

上井 兼吉

豐田 勝藏

松岡 剛夫

兼岩 傳一

永田 達彌

葛原 格

◎内務省土木試験所談話會

第二〇二回技術談話會話題

時日 昭和十五年四月二十六日(金) 午后一時半——四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試験所講堂

一、中空抗壓柱の挫屈に就て 横田 技師

一、長柱の挫屈現象の基本的考察及び中空抗壓柱に對する基礎方程式の誘導(四〇分)

二、各種の組合壓縮柱とパイプの挫屈に就て(三〇分)
三、柱の彈性破損に對する安全率と挫屈に對する安全率に就て(二〇分)

二、科學動員實施計畫綱領に就て(二〇分) 山田 技師
三、伊太利のエチオピア經營とその土木施設

藤井 所長

經營費一一七億リラに對し土木施設

一〇二億に達する事業に就て

◎近刊圖書雜誌

◎建設(第五卷三號)

(瀨戶政章氏)鐵筋コンクリート橋梁に於ける最近の進

歩)

◎土木試驗所彙報(第一一號)

(自轉車道の構造に關する調査)

◎土木學會誌(第二六卷四號)

◎セメントコンクリート道路(第六〇號)

(武山廣志氏)ソイルセメント道路試驗工事報告)

◎セメント彙報(第三八五三八六號)

◎駿工(第一六卷三號)

◎紀元二千六百年(第五月號)

◎清和(第七卷三號)

◎觀光(第八卷二號五月號「國際觀光」改題)

◎水利と土木(第一三卷四、五號)

◎乗合自動車(四月號)

(山田明吉氏)自動車交通事業法の改正に就いて)

◎鐵道軌道經營資料(四月號)

◎近江商人の店制及家法書

◎大阪商工會議所月報(四月號)

◎企畫(第三卷一號)

(戰爭經濟の理論と政策)

◎汎交通(四月號)

◎金澤高等工業學校學術報告(第一卷一號)

◎東京府道路概要

○觀光聯盟情報(第四卷三號)

○新民(第三五卷五號)

(府縣制々度の懷古)

○技術向上(第四、五輯)

(5) 静岡市災害視察報告講演)

○土木工業(第二卷第四號)

○道路(五月號)

(石原純氏 〓 道路に求むるもの)

○土木建築工事畫報(五月號)

○都市公論(四月號)

○三田學會雜誌(三、四月號)

(藤林敬三氏 〓 技術の進歩と労働者心理學の問題)

○技術評論(五月號)

○電氣通信學會雜誌(第二〇五號)

○法律時報(五月號)

○東大陸(五月號)(林語堂氏 〓 翻譯論)

○都市問題(第三〇卷五號)「住宅問題研究」

○石油時代(四、五月號)

○汎交通(五月號)

○地方行政(日文版第四卷第三號滿洲總務廳地方處)

○土木(第五七號)

○自警(五月號)

○大阪商工會議所月報(第三九六號)

○都市公論(五月號)

○警察協會雜誌(五月號)

○土木試驗所報告(第五二號)

(山田元氏 〓 路面處理を行ふ砂利道の母體組織に就て)

遠乗りの馬洗ふ水温みけり 巴 藤

つなぎ合ふて炊く舟のあり水温む 秋 翠

大章魚に歡聲あがる汐干かな 曉

風渡るまばら生垣五加木つむ 巴 藤